

和泊町立和泊中学校公開研究会

1 研究主題

学び合う力を育てる学習指導の研究 ～「主体的・対話的な学び」を取り入れた実践を通して～

2 研究主題の捉え方

「学び合う力」とは

- ・ 分からないことを教えたり、教えられたりする力
- ・ 自分の考えと相手の考えの共通点や相違点を見つける力
- ・ 相手の考えを参考にして、自分の考えを広げたり深めたりする力

「主体的・対話的な学び」とは

- 【主体的な学び】⇒学習課題の解決に向けて、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる
- 【対話的な学び】⇒ペアやグループ内での協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることを通じ、自らの考えを広げ深める

3 研究の仮説

仮説1⇒「授業充実の3ポイント」に基づいた指導過程で「主体的・対話的な学び」を重視した授業づくりを行っていけば、学び合う力が育つのではないか。

- 〈視点〉「主体的・対話的な学び」を重視した授業づくり
- ア 1単位時間の指導過程の工夫
 - イ 学び合いの仕方（小・中連携）

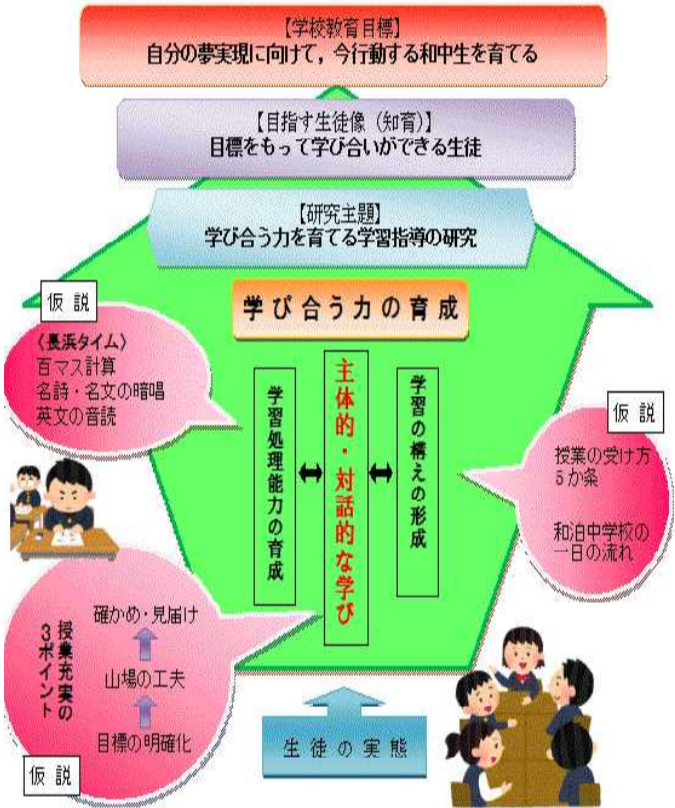
仮説2⇒生徒の学習処理能力(※)を高めたり、学習の構えを形成したりする場を設定して実践することで、学び合うための基礎的な力が育つのではないか。

- 〈視点〉学習処理能力の育成
- ア 名詩・名文の暗唱
 - イ 百マス計算
 - ウ 英文の音読

- 〈視点〉学習の構えの形成
- ア 和泊中学校の一日の流れ
 - イ 授業の受け方5か条

※学習処理能力…学習の基礎となる計算力、読む力、書く力、暗唱力など

4 研究の構想図



5 1単位時間の学習過程

	主な活動	主体的な学び	対話的な学び
導入	学習課題の設定 解決の見通し	自分は授業で○○を理解したい。 (課題の自覚)	友達は課題をどのようにして解決するのだろうか。 (見通しの共有)
展開	一人学びによる考えの構築 考えの交流 考えの再構築	書くことで自分の考えをはっきりさせる。 (思考の文章化) 答えにどのくらい近づいているだろうか。 (練り合い)	友達には絶対に分かってほしい。そのために・・・。 (表現力の育成) ○○さんの考えの特徴・良さは・・・だ。 (協働学習の充実)
終末	まとめ 習熟 振り返り	自分のゴールが見えてきた。 (自分の言葉で整理)	友達がいたから、自分の考えも変わったんだ。 (比較・補正) (自己評価)

6 学び合いの仕方

学び合う学習をより効果的に展開するために「学び合いの仕方」を設定した。小学校と連携して発表の仕方をそろえることは、生徒がこれまでの学習で習得した学び方を活用し、身に付けてきた能力を発揮（実感）しながら、理解を深める活動を促す上でも、大切だと思われる。

学び合いの仕方

- 〈約束〉
- 1 「はい」と返事をしよう。
 - 2 発表する時は、みんなの方を向いて発表しよう。
 - 3 聞くときは、発表する人の方を向き、うなずきながら聞こう。
- 〈伝える時〉
- はい 1 意見 ～については～と思います。その理由は～だからです。
- 賛成です 2 賛成 ○○さんの意見に賛成です。その理由は～だからです。
- 似ています 3 類似 ○○さんと似ています。
- 付け加えます 4 付加 ○○さんの意見に～を付け加えます。
- 別の意見です 5 違い(反対) 私は～だと思えます。理由は～だからです。
- 確認です 6 確認 ～のところは～だったので、もう一度お願いします。
- 〈練り合う時〉
- 質問です 1 質問 なぜ～ですか。理由を教えてください。～についてはどう思いますか。
- 提案です 2 提案 ～という考えも良いのではないかと思います。
- 修正です 3 修正 ～と考えていましたが、～という考えになりました。理由は～だからです。
- はい 4 確信 やはり～だと思います。理由は～だからです。
- まとめます 5 まとめ ○○と□□の意見をまとめると、～ということになると思います。

7 公開研究会



教師と生徒との対話（数学科）



小中連携の視点で（数学科）



グラフを重ね合わせて思考（理科）



ワークショップ型で（理科）



ICT活用で場面を把握（英語科）



研究発表（全体会）

分科会の主な協議内容

	成果	課題
数学科（三年）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒と教師のコミュニケーションがとれており、よい雰囲気の中で対話的な活動ができていた。 ○ ICTを活用して授業が行われていた。 ○ グループ学習で教え合いながら課題解決する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習課題とめあての関連性については、生徒の思考の流れを踏まえた工夫が必要である。 ● 提示内容が残るような板書等の工夫が必要である。 ● 既習事項の掲示や長浜タイムの活用があればよいのではないかと。
理科（二年）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と生徒の対話ができている。 ○ 学習目標やまとめを生徒から引き出していた。 ○ 自分たちのデータを用いたことやグラフの比較によるまとめ方がスムーズだったことがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個の意見をまとめる時間が必要である。 ● ペアからグループへの展開やグループ活動の在り方について検討が必要だと思う。 ● 実験手順の説明をなるべく短くして、生徒の思考時間を多く確保したい。
英語科（三年）	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイマーを活用した学習で生徒が時間を意識していて、集中力が高まっていた。 ○ グループ活動では生徒同士の教え合う姿が見られた。 ○ ICTを活用することにより、場面の理解と課題英文や英会話のポイントを把握しやすくなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に気付かせたり、引き出したりする導入の工夫が必要ではないか。 ● 苦手な生徒はすぐ答えを聞こうとするので、考える時間を与えることが大切である。 ● 振り返りとまとめの時間の確保が必要である。